

作成：
患者 ID：

(文書 No. 0115)
患者氏名：

様式 I (説明同意書・同意書有)
様

核医学検査説明書：線条体シンチ

検査名 線条体シンチ

《説明：0115Dat》

使用する放射性医薬品：イフルパン (123I) 注射液 (123I-Ioflupane)

検査予定日 同意書に記載

目的

パーキンソン症候群、レビー小体型認知症について調べます。
放射性医薬品（放射線を出す薬）を注射し、薬が分布した状態をガンマカメラという装置で撮影し、黒質線条体ドパミン神経の脱落の有無を調べます。
本検査で得られる画像は、適切な診断や治療計画を行う上で役に立ちます。

検査手順

- 食事制限等、検査前に注意することはありません。
- 放射性医薬品を静脈注射します。
(薬品には、アルコールが含まれますのでアルコールに弱い方は、事前に申し出てください。)
 - 注射 3 時間後、脳の撮影をします。(約 30 分間)

副作用

放射性医薬品による副作用発生率： 100 人に 1 人と報告されています。
(副作用としては、嗅覚錯誤、息詰まり感などがあります。)

被ばく

使用する放射性医薬品による被ばく線量は約 5mSv です。
(参考：胸部～骨盤部の単純 CT における被ばく線量は約 13mSv)
検査はその有益性が、被ばくの危険性を上まわると判断した時のみ行います。

検査後の注意

検査後も、わずかな放射線が体内から放出されていますので、放射性医薬品投与後 12 時間は乳幼児との密接な接触は避けてください。
授乳中の方については、注射後最低 3 週間の授乳制限をしていただきます。

※妊娠中または妊娠の可能性のある方には検査を行いません。

※予約の変更は、検査 2 日前までをお願いします。(連絡先：053-474-2222 内線 2965)

「イオフルパン(123I)注射液を注射される方へ」

本製剤には1筒[2.25mL]中無水エタノールが0.1125[mL] (5%) 含まれます。

本剤に含まれるアルコールは微量であり、全量投与時のアルコール濃度は酒気帯び運転の血中アルコール下限値の約 1/10 以下です。

アルコールに対し過敏症がある場合は検査を受ける事ができない場合があります。

- 飲酒で顔が赤くなる程度であれば問題ありません。
- 酒性綿で皮膚が赤くなる程度であれば問題ありません。
- 飲酒に対し強い反応（息苦しさ、喉の詰まり、気分不快、めまい、かゆみ、じんま疹）がある場合は、薬剤投与時に同様の症状が出る可能性があります。

原則禁忌となりますが、実施の場合は投与時に医師に立会いをお願いします。

また検査終了まで長時間（投与後約 4 時間）になります。ご家族の付添いの必要性についてもご考慮ください。

